

# 大会宣言

令和2年は、コロナ禍による感染防止対策として、テレワークや在宅勤務、時差出勤など、働き方が大きく変化した一年であった。また緊急事態宣言の発出を受け、不要不急の外出自粛や3密を避けた行動が求められ、その中でストレス等の精神的な健康を損なう者も多く、社会的な問題にもなっている。

このような中で、新型コロナウイルス感染症を含めた令和2年の厚木労働基準監督署管内における災害件数は、前年と比較して80件増(943→1023)、死亡災害は1件増(6→7)の結果となった。

災害を業種別に見ると「製造業・運輸交通業・農林業・畜産・水産業など」は減少傾向にあるものの、サービス業・陸上貨物は254件(235→254)と大幅な増加となった。特に、陸上貨物が前年度比災害件数62.6%増(52→83)と大幅増であった。その一例ではあるが、サイドブレーキの掛けがあまり、動き出した車輦にドライバー自らが轢かれるという悲惨な死亡事故も発生している。

また、事故の型別では「転倒」、「墜落・転落」、「無理な動作」が1位、2位、3位を占め、リスクアセスメントにおいて、機械・設備だけでなく、高所・段差・滑りやすさ等の作業環境、作業姿勢・作業方法等も含めた危険源の洗い出しを行い、更なる有効な対策を実施していかなければならない。

本年度の全国安全週間のスローガンは、

## 持続可能な安全管理 未来へつなぐ安全職場

となった。

これは、国連が提唱している持続可能な開発目標(SDGs)にも適応したものであり、働く高齢者の増加等の就業構造の変化や新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う社会情勢の変化等に対応し、将来を見据えた持続可能な安全管理を継続して実施していくことにより、すべての働く人が安心して安全に働くことのできる職場の実現を呼びかけるものである。

本推進大会を契機として、長期的な視野に立った安全衛生活動を推進し、災害を削減して安心安全な職場を築いてく事を事業場におけるすべての関係者が、ここに誓う。

令和3年6月8日

令和3年度 全国安全週間県央地区推進大会